

第2回幌延町総合計画審議会

日 時 令和2年5月29日(金)
午後1時30分から
場 所 幌延町役場 2階大会議室

議 事 次 第

1 開会

2 議事

第6次幌延町総合計画(序論・基本構想・重点戦略)(素案)の策定について

- (1) 第1部 序論
- (2) 第2部 基本構想
- (3) 第3部 重点戦略

3 その他

4 閉会

議事録

会議等の名称		第2回幌延町総合計画審議会		
実施年月日	令和2年5月29日	場 所	幌延町役場2階 大会議室	時 間 13:30~15:40
出席者	審議会委員：一関捷治委員長、小川國弘副委員長、齋賀弘孝委員、吉原哲男委員、澤谷敦美委員、			
	山本慎二委員、小玉利治委員、谷口智哉委員、高橋秀明委員、松永継男委員、無量谷隆委員、			
	大塚達也委員、小西均委員、高橋公晴委員、佐藤光浩委員、佐藤直樹委員、佐々木幸男委員、			
	高木健太郎委員、梶幹雄委員 委員26名（出席19名、欠席7名）			
町：野々村町長（挨拶のみ）、角山企画政策課長、山下主幹、梶係長、柏谷主事				
議事概要				
1. 開会、町長あいさつ				
2. 議事：委員長進行				
・説明：事務局				
【第6次幌延町総合計画（序論・基本構想・重点戦略）（素案）の策定について】				
●工程について：「令和2年度 総合計画・総合戦略策定 工程管理表」により説明				
事務局：基本構想等策定作業に遅れがあり、予定していた分科会等開催できなかったこと、今後もタイトなスケジュールをお詫び申し上げます。				
・昨日（5/28）、副町長、教育長、課長級職員で構成する幌延町総合計画策定委員会で総合計画基本構想等素案を検討し調整したものを、本日（5/29）、審議会においてご審議いただきます。				
・ご審議内容を含め6月5日（金）に議会まちづくり常任委員会で説明し、そこでの意見等を踏まえ、あらためて6月8日（月）に審議会を開催し、委員皆様にご審議いただき基本構想の原案として6月18日（木）開会の町議会へ議案として提出します。				
・その後、基本計画策定作業を進め、審議会、部会、WS等を開催しつつ、本年10月を目途に策定完了したいと考えています。				
[質疑応答]				
委員：WSなどをやるとのことだったがどうなったのか。				
→事務局：基本計画策定作業の中で実施していきたい。				
・基本構想と総合戦略のパブリックコメントは実施するのか？				
→事務局：事務局の作業進捗遅れなどでタイトなスケジュールとなっているが、町の基本構想の策定については、まちづくり基本条例の規定により町民参加手続が必要であるが、この手続についてはパブリックコメントのほか、審議会での審議でも良いとされていることから、基本構想についてはパブリックコメントを実施しないこととします。				
・常任委員会で修正意見等があった場合にはどのように対応するのか？				
→事務局：あらためて審議会でお諮りして検討します。				
委員：総合計画の中で総合戦略を定めるのか？				

→事務局：総合計画の中で一体的に策定します。

(1) 第1部 序論：説明～事務局

・主に事前配布資料からの変更点を説明

[質疑応答]

委員：4ページで重点戦略計画期間が5年とされているが、その後に重点戦略は策定されないのか。

→事務局：重点戦略は国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づくもので、第2期総合戦略終了後は、検証等の過程を経て新しい第3期総合戦略を策定することとなると思われます。

委員：6ページなどで平成27年のデータが使われているが、この古いデータを計画の根拠とするよりは、新しい数値とすべきではないか。

→事務局：年齢区分別人口などの分析をする場合は、国勢調査の数値でしか比較できないため、分析に使用する数値は国勢調査とし、人口推計には直近の住民基本台帳人口等を使用します。

委員：7ページで昼間人口の流入が顕著であり、そこを取り込むような政策が必要ではないか。

→事務局：住居が不足していることが一番の原因と思われ、民間賃貸住宅建設補助や定住促進持家住宅建設等奨励補助等を創設し住宅建設を促してきたが狙いどおりとなっておらず、何らかの見直しが必要であると認識しています。

委員：11ページの地域経済循環の項目でGRPの説明がない。

→事務局：本日の資料では掲載しておりませんが、最終的には難しい単語などについて解説する用語集を巻末等に加筆する予定ですが、GDP（国内総生産）が国内を対象とするものに対し、GPRは域内総生産のことで、一定の地域内での総生産を指します。

委員：11ページの地域経済循環で1人当たり所得が919.7万円となっているが、まったく実感の伴わない数値だが…。

→事務局：全体の生産額に、国道などからの交付金などすべての所得を合わせて全住民で除した額であり、サラリーマンではない農業所得や町が国などから交付される金額を含めるため、住民感覚とは少し異なった数値になります。

委員：16ページでアンケート配布数が1400件とのことだが、そこまで幌延町に世帯があるのか。

委員：郵便局で把握している世帯数も1200弱なので多いように思うが…。

→事務局：事業所にも配布しており、施設入所者なども個々を世帯とすると郵便配達世帯より多くなるのかもしれませんが。

(2) 第2部 基本構想：説明～事務局

・主に事前配布資料からの変更点を説明

事務局：当初配布資料では3案を記載していましたが、役場策定委員会において折衷案などが追加され6案となりました。審議会においてご検討願います。

[質疑応答]

●将来像について

(各委員意見)

・案5が適当

・案1が適当

・将来像テーマによって計画内容は変わるのか。

→事務局：どの案であっても全てを包含するものであり内容はほぼ変わりません。将来への思いや願いをキーワードとして策定した6案のため、表現の違いとして認識していただきたい。

・第5次に「自然との共生」という文言が入っていて、第6次で消えてしまうのでは、別の方向に進めますという意図になりはしないか。

→委員：もともと自然と共生している前提で案1でよいのではないか。

・第5次の将来像を変えないという選択肢はないのか。

→事務局：計画ごとに毎回設定しているので変えないという選択肢はないかと思います。

・この場では発言しづらい委員もいるだろうから後で意見をもらってはどうか。

・委員から発言のあった望ましいキーワード「笑顔」、「共に」、「自然」、「未来につなぐ」などを合体させて再構成してはどうか。

・ここで新たに将来像を作っても施策内容が変わらないなら6つの案の中から決めてはどうか。

・この場での多数決+キーワード添加としてはどうか。

・次回の審議会まで練り直してはどうか。

・決まらないので、この場で多数決で決めるべきでは。

⇒多数決とすることに決定

【多数決】

案1：6、案2：1、案3：0、案4：0、**案5：7**、案6：3

⇒案5とする

「共に拓き、共に創り、未来へつなぐ！ ～笑顔と希望に満ちあふれるまち ほろのべ～」

委員：29ページで平成27年に策定した人口ビジョンの2040年2,241人という目標人口は見直しするということか。

→事務局：国が用いる指標が変わっているの見直しされます。

・平成27年策定の際にも数値が高くて無理ではないかと言ったが、町民総意でこの目標とすると決定されたもの。これを国の指標が変わったから見直すということでは住民ではなく国に目を向けるということか。

→事務局：策定当時に使える指標が平成22年国勢調査であり、住民基本台帳人口と大きな開きあったが、その後の平成27年国勢調査では近似値となっており、使用可能な直近数値として住民基本台帳人口をベースとして人口推計としたいと考えています。

委員：29ページで令和11年の目標人口2,100人はこれまでの実績を踏まえた目標値なのか。自然体との159人の差に具体的な意味はあるのか。

→事務局：合計特殊出生率を増やすという国の方針もあり、そこを重点戦略で取り組んでいこうとするものでアプローチは様々に考えられます。

委員：30ページで移住定住の促進は、昼間人口を取り込むことが必要であり、不足している公営住宅を整備する施策を進めるべきではないか。

→事務局：住環境整備が課題としていますが、公共で実施すべきか、民間で実施すべきかという整理が必要で、現時点では民間賃貸住宅建設補助などで民間ベースで個人用、社宅用住宅などの建設を奨励しています。

委員：31ページの基本目標2「2-4 新産業の創出と企業誘致の推進」の具体策や要請行動などを行っているのか。

→事務局：現時点では具体的な展開はありませんが、商工業支援策をPRしたり、今はない酪農6次化、冷涼な気候、泥炭、珪藻土、風力、バイオマスなど新たな成長分野での産業創出、企業誘致を推進することが考えられる。

委員：31ページの基本目標4で新型コロナウイルス関係で長期間休みを余儀なくされた学生向けにネット環境を充実していく必要があり、「情報化・国際化」の前に「通信」を加えてはどうか。

→事務局：検討します。

委員：31ページの基本目標4に郷土資料館は含まれるのか。心象館などと一体的な運営ができないのか。

→事務局：芸術・文化の振興として、基本計画を策定する際の参考とさせていただきます。

委員：32ページの基本目標5の基本施策だけ「整備」という単語が使われており、他は「推進」となっている。「整備」は何らかの目的達成のための手段であり、ここにはその目的が記載されるべきではないか。

→事務局：この目標は、ライフラインなどハード整備に直結する部分でもあり「整備」の表現が多用されています。国の流れとしては国土強靱化計画を策定することとされており、この目標から外出しするようなイメージで幌延町国土強靱化計画が策定されることとなるためこのような表現となっています。

委員：32ページの基本目標5に地域交通も含まれるのか。

→事務局：含まれます。

○委員長：審議が長時間に及んだため、本日は第2部までとして次回6月8日午後1時半からの審議会で第3部を審議することとします。

(以上)

幌延町総合計画審議会委員名簿

NO.	機関	職名	氏名	部会
町議会議員				
1	幌延町議会	議員	斎賀 弘孝	◎まちづくり・行財政専門部会
2	幌延町議会	議員	吉原 哲男	福祉・民生専門部会
教育委員会委員				
3	教育委員	委員	澤谷 敦美	○教育・文化・体育専門部会
農業委員会委員				
4	農業委員	会長	卯子澤 芳彦	◎産業・経済専門部会
国及び道の地方行政機関の職員				
5	留萌家畜保健衛生所	所長	山本 慎二	産業・経済専門部会
6	幌延河川事務所	所長	渋谷 直生	まちづくり・行財政専門部会
町の区域内の公共的団体の代表者				
7	民生委員協議会	会長	小玉 利治	福祉・民生専門部会
8	幌延町農業協同組合	部長	谷口 智哉	産業・経済専門部会
9	幌延町観光協会	理事	高橋 秀明	産業・経済専門部会
10	幌延市街地区連合町内会		一関 捷治	まちづくり・行財政専門部会
11	問寒別地区連合町内会	推薦	小川 國弘	教育・文化・体育専門部会
12	幌延町商工会	会長	松永 継男	○産業・経済専門部会
13	幌延町文化協会	会長	無量谷 隆	教育・文化・体育専門部会
14	幌延町体育協会	会長	角山 隆	教育・文化・体育専門部会
15	生涯学習センター運営審議会 (社会教育委員)	委員長	小野 篤夫	教育・文化・体育専門部会
16	幌延町社会福祉協議会	事務局長	大塚 達也	○福祉・民生専門部会
17	幌延町職員組合	推薦	新野 貞治	まちづくり・行財政専門部会
18	幌延福祉会	施設長	小西 均	◎福祉・民生専門部会
19	JR幌延駅	駅長	高橋 公晴	まちづくり・行財政専門部会
20	幌延郵便局	局長	佐藤 光浩	福祉・民生専門部会
21	稚内信金幌延支店	支店長	佐藤 直樹	○まちづくり・行財政専門部会
22	雪印メグミルク幌延工場	総務課長	山本 耕司	産業・経済専門部会
23	北海道電力幌延NWセンター	所長	佐々木 幸男	産業・経済専門部会
学識経験者				
24	北大天塩研究林	林長	高木 健太郎	◎教育・文化・体育専門部会
25	幌延地圏研究所	推薦	木山 保	教育・文化・体育専門部会
26	幌延深地層研究センター	副所長	梶 幹雄	産業・経済専門部会
町長が適当と認める者（一般公募）				
27	公募		なし	
28	公募		なし	
29	公募		なし	
30	公募		なし	

まちづくり・行財政専門部会	6名
福祉・民生専門部会	5名
産業・経済専門部会	8名
教育・文化・体育専門部会	7名
計	26名